



## 下市町内唯一のガソリンスタンド『ならコープ下市コミュニティスタンド』が誕生 ～「ならコープ」のネットワークを活用し、地域の賑わい拠点を創出～

### ■地域の賑わい拠点を創出

市民生活協同組合ならコープ（以下、ならコープ）は2013年、「吉野共生プロジェクト」\*を立ち上げ、県南部地域の急激な人口減少による過疎化や高齢者の買い物支援などの課題解決に取り組んでいる。下市町でもこうした問題を解決するため、旧小中学校の空き校舎や町内の未利用施設などを産・官・学・地域が連携・協力しながら利活用する取り組みを進めており、2021年には、空き店舗となっていた南都銀行旧下市支店を「ならコープ下市ステーション」として開所した。この空き店舗の利活用は、ならコープ、下市町、南都銀行の三者間による包括協定の一環によるもので、日用品や食料品の販売、宅配拠点としての利用の他、こども食堂の開催など住民同士の交流の場として利用され、地域住民の拠り所となっている。

\*「吉野共生プロジェクト」…人口減少と高齢化の進む県南部・東部（吉野地域）が県北部の人口集中地域と人・モノ・サービスの交流を深めることで経済を元気にすることを目的とする取り組み

### ■ガソリンスタンドを地域コミュニティの拠点に

2024年10月、ならコープと下市町が締結する「地方創生にかかる包括連携協力に関する協定」に基づく取り組みの一環として、町内唯一のガソリンスタンド「ならコープ下市コミュニティスタンド」（以下CS）がオープンした。鉄道がなく住民の生活に車が必要不可欠であるにも関わらず、2023年6月以降、町内にガソリンスタンドがなかったことから、その復活には町や住民から大きな期待が寄せられている。

CSの開業についてCS責任者のならコープ上田広志氏は、「ならコープにとって県内初となるガソリンスタンドの運営は不安な部分も多かったが、地域の暮らしがあってこそ私達の事業は生きる。『目の前の地域の困りごとから逃げずに町と

共に手を携えてやっていこう』との思いが強かった」と当時を振り返る。CSでは町内全域に配達を行うならコープのネットワークを活用して灯油缶の配達や災害時の燃料確保はもちろんのこと、日用品の販売や地域住民が気軽に集まり交流できるコミュニティカフェの運営など様々な機能を提供し、過疎地域のガソリンスタンドの新たなモデルになることを目指している。

### ■人と人とのつながりで安心を構築

様々な世代が集まる小さな拠点づくりを進めることで住民同士の繋がりが生まれ、地域住民の健康や見守りにも結びつく。ならコープでは、今ある暮らしを守りながら地域の人が笑顔で生活できるよう、今後も町と協力しながら過疎地域のモデルとなる人が集まる仕掛けづくりを進めていく。

（村井 渚）



（左上から時計回りに）  
町内唯一のガソリンスタンド「ならコープ下市コミュニティスタンド（CS）」/CS内のコミュニティカフェの様子/南都銀行旧下市支店を利活用した「ならコープ下市ステーション」



#### 【お問い合わせ先】

##### ◇ならコープ下市コミュニティスタンド（ENEOS下市SS）

〒638-0041：奈良県吉野郡下市町下市 2347-13

TEL：0747-52-8801

営業時間：9：00～18：00（土日休/祝日営業）

##### ◇ならコープ下市ステーション

〒638-0041：奈良県吉野郡下市町下市 100

TEL：0747-68-9652

営業時間：10：00～17：00（土日休/祝日営業）